# オンラインは業務の窓

## 書類の不備などすぐに判明

事務所に出勤すると、真っ先にパソコンの電源を入れることが私の習慣です。デスク回りのセッティングを済ませ、上着を脱いで席に座る頃には、丁度パスワードの入力画面が立ち上がっています。

パスワードを入力すると、今度はWindowsの起動とサービスタスク（初期に読み込まれるソフト）で、また更に時間がかかります（Windows7は起動が速く便利となりました）。その間に、郵送書類の区分けをして、今日のスケジュールを再確認します。

昨日クリアファイルに取りまとめた未処理の案件を、作業の優先順に整理し終える頃には、パソコンの読込みが完了しており、これで動作ストレスなくソフトを起動できます。

メーラーを開くと、無造作にメールが流れ込んできます。広告メールを削除し、必要なメールにフラッグを立て、後で見直す目印にします。

ほんのわずかな時間の段取りですが、『慣れた動作』は、直ちに日常に戻してくれますから不思議です。このようにパソコンを主軸とした動作は、スタッフを見渡しても同じのようです。

【書類の不備】

いよいよ、本業である保険会社のオンラインに接続し、表示されるコンテンツに目を通すと、意識は保険代理店モードに切り替わります。

今や、オンラインは代理店業務の窓となり、関連情報や業務連絡をスタッフ全員で共有できて便利です。

その中でも、書類の不備の連絡は、お客様の信頼を損ねる結果を招きますので、極めて優先度の高いコンテンツです。忘れた頃に不備が判明するアナログ時代と違い、短いタイムラグで不備を把握できますので、そのフォローも容易になりました。

保険会社の社員は、「この代理店は不備が多いな」と思いつつも、不備内容を送信する作業を繰り返してくれます。

社内では、「このスタッフは、また同じミスを繰り返している」と、業務能力を問う成績表として捉えます。重なる不備を注意すると、「忙しかったから。ついうっかり」と、言い訳は常套句として慣れています。また同じミスを繰り返すのは必至でしょう。

しかし、書類の不備は業務能力だけの問題なのでしょうか？　『慣れた動作』を妨げる要因は他にもあるのではないでしょうか？

とくに損保の代理店さんは、その要因の一端を十分に理解されているはずです。

### 帳票のインフラ整備も必要に

【帳票のインフラ】

オンラインの機能が充実する中であっても、書類の混沌さは旧体質のまま放置されている気がします。種目ごとに帳票のフォーマットが異なっており、さらには、付随した必要書類もバラバラなのは、未だに慣れることなく作業のストレスとなっています。

帳票は次々と改版され、どの帳票が最新であるかも把握しきれなくなっています。「旧帳票を使用していますので、取り直してください」と連絡が入ると、目的の帳票にたどり着くまで、オンラインのコンテンツ内を右往左往しながら探し出します。中には、「どこに改版する必要性があるのだろう？」と無意味さを感じることもあります。

今度は、「署名が漏れています」と差し戻された内容を確認すると、この種目もまた、異なる位置に署名欄が配置されています。「お客様の署名欄と代理店欄は、統一したレイアウトにしてほしいものだ」と、うんざりします。

代理店でさえ戸惑う書類ですので、郵送で書類を取り付ける際は、蛍光ペンと付箋紙の山盛り送付です。契約者が見てもわかりやすい帳票と、保険会社が免罪符としたい帳票とは、かなりかけ離れた位置付けなのでしょう。

確かに、「そんな記載はなかった」と、クレームが発生すると致命傷になり兼ねませんので、保険会社の立ち位置も理解できます。しかし、せめてフォーマットを統一し、手慣れた動作で処理できるレイアウトにしてほしいものです。

不備の連絡を発信する保険会社の社員も、書類に翻弄される代理店も、お互いに事務ロードの負担になっていることでしょう。

業務の大半を占める書類の処理に、効率を妨げる要因の排除は、より新たな時間を創出できる代理店の日常へと変化できる気がします。次世代モデルも並行する中、帳票のインフラも整備の本年であってほしいと期待します。

---

・・・ん。

≪25≫

「ほけん」「あんしん」「50音締了の“ん”」

株式会社一期（いちご）保険事務所
代表取締役　石井 裕二
ＨＰ▶http://homepage2.nifty.com/ichigo/

---

夢 16

株式会社ドリームパートナーズ
代表取締役　藤本 准一
【ＨＰ】http://www.dream-p.jp

# 今年の目標は3つ

## 読書と行動、社長業で

みなさんこんにちは。ドリームパートナーズの藤本です。あけましておめでとうございます。今年も引き続きよろしくお願いします。さて新年になると今年の目標を掲げるものですが、みなさんはいかがでしょうか？

私の今年の目標は、3つです。1つ目は毎月2冊の本を読破すること。昨年は忙しさにかまけて、なかなか本を読むことができませんでした。たくさんの本を読むことで感性を磨きたいと思います。

2つ目は行動あるのみです。昨年度もいろいろな考えや戦略のもと、たくさんの試みをしてきましたが、途中で頓挫してしまったこともいくつもあります。

せっかくいい考えや戦略があっても、行動でやりきらなければ絵に描いた餅になってしまいます。今年は行動あるのみです。どんどん動いて消化していきたいと思います。

3つ目は社長業です。私には営業マンとしての顔と、社長としての顔と2つの顔があります。社長業を頑張ることは、会社の成長につながります。

理念をきちんと浸透させること。従業員の働きやすい環境、意欲を育てること。そういった仕組みづくり、従業員の育成に力を入れていきたいと思います。

まだまだ、漠然としたイメージなんですが、しっかりと具体的に取り組んでいって成果を残したいと思います。また、ご紹介できる取り組みがあれば、みなさんにご紹介していければと思います。

---

現代人のカルテ

知っておきたい「病」の話

社会医学環境衛生研究所所長
谷 康平

252

# 聖徳太子にまつわるユニークな異説

2012年12月21日、地球は滅亡せずに新年を迎えることができました（昨年末、話題になったマヤ暦のことです）。読者の皆様、明けましておめでとうございます。

過ぎてしまいますと、12月16日の総選挙が遠い過去のような気がすると同時に、やはり「なぜ、野田氏が全く勝算のない選挙戦に突き進んだのか」について大きな疑問を感じるのは筆者だけではないかと思います。

その総選挙直後の12月17、18、19の3日間、奈良で平城遷都1300年の記念第一回アジア・コスモポリタン賞の授与式とその関連行事に出席しました。奈良県とERIA（東アジア・アセアン経済研究センター：西村英俊事務総長）が主催したもので、筆者は春日大社、興福寺、薬師寺、唐招提寺にご案内いただきました。そしてある人物から面白い話を聞いたのです。

「『聖徳太子』（以下、太子）という名の人物は存在しなかった。即ち、『太子』という名はその人物が死亡した後に贈られた忌み名で、生前の名前は「蘇因高」と隋で呼ばれた人物で、あの有名な「日出ずる処の天子…」で知られる太子の信書を遣隋使として隋に届けたとされる日本名「小野妹子」。太子は多くの人と同時に会話が可能だったとされるが、実は複数の言語を話すことができた。幼い頃『馬厨の皇子』といわれたが、私たちが知っているあの悲劇の「蘇我馬子」とも呼ばれ、太子の側近中の側近といわれた「秦河勝」という名でもあった」

少しでも日本の歴史を学んだ人間にとっては「聖徳太子＝小野妹子＝蘇因高＝蘇我馬子＝秦河勝」という方程式など理解の範疇を超えた奇説、珍説視しか思えないほどの説を耳にしたのです。そしてその根底には太子の500年前以上に存在した地球歴史上最大のスーパースター（いうまでもなくキリスト（救世主）と呼ばれたイエス）の影が見られるというのです。

①馬小屋で誕生したこと（馬子）②蘇我、よみがえる即ち再生③死後の復活を恐れる連中が聖徳太子という名を贈ったことなど、その傍証だというのです。また、「秦」という文字を分解すると「三人の木」となり、三位一体を唱えたネストリウス派キリスト教であった景教のにおいがぷんぷんするとのことなのです。

以上はある人物の意見（異見？）なので確認する術がないような話なのですが、非常に興味のある説でもあるともいえるのです。

1000年以上も前の日本で西アジアと東アジアの密な交流があったことは正倉院の御物を見れば一目瞭然です。また、現在アフガニスタン周辺で見られるATLウイルス（成人Tリンパ球性白血病の原因）の遺伝子がかつて日本でも九州や四国で濃厚にみられたのも事実です。臨床から見ても南九州などに風土病的に存在する成人T細胞白血病として医学の世界では知られています。

新年早々、夢のような話を紹介させてもらいましたが、まんざら「インチキ話」として片付けられない部分もあるのです。かつての日本を舞台にシルクロードを行き来しながら西アジアから東アジアへ、そして東から西への流れもきっとあったはずです。

ちなみに太子の依頼で四天王寺を建立したのが世界最古の会社組織として最近有名になっている「金剛組」という宮大工集団で同社のホームページでは「百済」から渡来したと紹介されています。

かつて世界では今日各地で高まりつつある安物のナショナリズムではなく、地球規模の本物のグローバリズムが存在したのではないでしょうか。それが医学の面から伺えるのですから興味が尽きません。今年もよろしくお願いいたします。

## アフガニスタンと九州

### 共にATLウイルスが濃厚に存在

## かつて世界には本物のグローバリズムが存在した